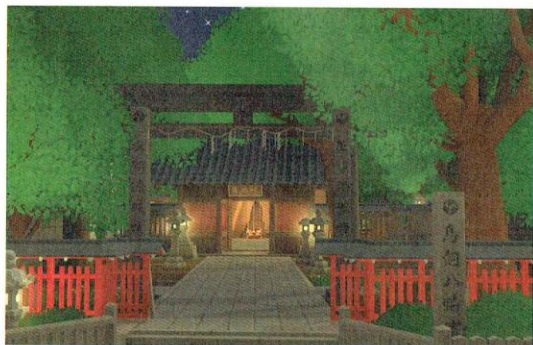


動時DX²¹

〈デジタルトランスフォーメーション〉



鳥飼八幡宮はアバターで参拝できる

海外客も視野にアバターで神社の歴史文化などを紹介

神社存続へメタバースで発信強化

インターネット上の仮想空間(メタバース)に建物や境内などを再現した「メタバース神社」が注目を集めている。人口減少社会の到来で、参拝者や氏子の減少などのほか、昔から地域コミュニティの一角を担っていた役割の変化など、神社を取り巻く環境も変化している。そこで、海外も視野に入れた神社の発信力強化の一環としてデジタル化を活用し、神社の将来的な存続につなげる狙いがある。

若い世代などの接点に デジタルで神社を最適化

約1800年の歴史があり、全国の八幡神社の中でも最も歴史があるお宮の一つとされている福岡市中央区の鳥飼八幡宮は、応神天皇や神功皇后、玉依姫尊を祭り、縁結びの利益が知られている。古社で歴史の長い神社の一方で、新しい取り組みにも積極的な神社として近年話題に上ることも増えている。2022年には社殿を総建て替えし、併せて境内も整備中で、24年には表参道など境内外構工事が完了する。選宮は従来、地域活性化・技術の継承などを目的とした公共事業だったが、鳥飼八幡宮では「次世代の地域や神社界の活性化を視野に入れた事業として取り組んでいる」としており、神社のハード整備などと並行して取り組んできたのが、神社の情報発信機能の強化だった。その

一環として始めたのが、仮想空間(メタバース)に神社を再現し、パソコンやスマートフォンなどを通じて世界中から参拝できる。

同神社によれば、人口減による参拝者の減少など、神社を取り巻く収益環境が厳しくなっており、また、同神社周辺には通勤族が多いこともあり、「氏子意識を持つ住民が減少傾向にある」といった都心部ならではの課題もあった。特に伝統的な生活習慣や信仰のあり方から離れている若者の興味を神社へと引きつけるために、今後SNSに替わるコミュニケーションの主流と言われるメタバース空間へと進出することで、「実際の神社をデジタル空間に構築して、遠方の方やお身体の不自由な方のご参拝の一助となるだけでなく、若い世代にも神社と親密になっていただく場として活用していきたい。行く行くは世界の方に日本人の精神性を伝え、また日本神話の世界観を伝えるツールに育てることにつなげたい」と話している。

協力したのは、デジタル技術によるコンサル業務を手がけているEY JAPAN(福岡市)で、スマホやタブレットなどで「ZEPETO(ゼベト)」というアプリをダウンロードし、自分の分身であるアバターをつくる。ZEPETOで「鳥飼八幡宮」を検索して、ワールドを選んでタップすると、本物そっくりに再現された神社の境内が出現する。アバターを操作しながら、神社での参拝作法や神さまのことを説明する豆知識カード集めや、境内のあるルートのタイムトラベル「福男・福女」など、さまざまなアクティビティを楽しめる仕掛けとなっている。神道の関係者からはメタバース神社について「分社なのか遥拝所なのか」といった問いかけもあるという。同神社は「今は、メタバースに参加されている人の気持ち次第」としており、その位置付けを明確にしているわけではない。古き伝統文化を継承するシンボリックな存在である神社とデジタル化の関係性を深めていくことで、クリアすべきものも出てくる。

同神社は「デジタル化を進めることは、歴史と伝統を脱ぎ捨てているように感じるかもしれない。一方で、昔の人が日本語を文字として表現するために最初に作った文書が古事記であり、その時々の最先端技術を使って、日本の歴史文化伝えていった」とし、「最新の技術で、1800年の歴史と伝統を再構成することに違和感はない。次の100年、1000年へ伝えるために鳥飼八幡宮を最適

化していくためのツールの一つ」と話している。将来的にはメタバース上で「祈願を受けたら、お守りの授与もしていく方針で、神社にはそれぞれの地域の歴史が詰まった資産があり、デジタル化を通じて収益化の道も模索していきたい」と、デジタル神社の潜在性に期待を寄せている。

「スマートアバター」活用 多言語でインバウンド対応

神社のデジタル化は着実に広がっている。アバターを使って神社の歴史や文化を多言語で伝えているのは高見神社(北九州市)。同神社は、洞海湾の産土神とされ、八幡製鉄所の操業開始以降「ものづくりの精神」を伝える日本近代化産業の守護神として親しまれてきた。

現在、神職や巫女の装束を着たキャラクターが、同神社の様相や歴史、「初宮詣」「夏越天祓大祭」など行事、神社のお守りについて、日本語と英語で説明している。採用した技術は、地元IT企業のBONDが開発した「スマートアバター」で、世界31か国語に対応したキャラクターが、テキスト情報を入力しただけで表情やしぐさなども交えて全自動で発信することが



高見神社の歴史を紹介するキャラクター

「今後は、北九州の歴史・文化や観光地、みやげ物などの紹介などにも広がっていきたい。情報を国籍や世代を問わずにデジタル配信することは、地域の活性化につながり、インバウンドの増加にも対応できる」として、引き続きデジタル化の拡充を進めていく考えだ。